

名古屋大学保育施設との意見交換の実施結果について

(男女共同参画推進に関するワーキンググループ)

日 時 : 平成13年10月31日(水) 14:00~15:05

場 所 : 事務局1号館5階 第2会議室

保育施設出席者:

水谷暎子氏(どんぐり保育園園長(東山地区))

大島純子氏(ひまわり保育園園長(鶴舞地区))

ワーキンググループ委員:

伊藤主査、北住、飯高、松本、後藤節子、山内、荒木の各委員

伊藤主査から、挨拶と本ワーキンググループの活動状況について説明の後、ワーキンググループ委員の紹介があった。引き続き、水谷氏及び大島氏から挨拶があった。

保育園から資料「あしたに向かって(創立20周年記念として1997年に発行した冊子)」の提供があった。

保育施設の現状及び意見交換等の概要は下記のとおり。

(なお、あすなる保育所(鶴舞地区)の現状については、ひまわり保育園園長が回答。)

項 目	どんぐり保育園(東山地区)	ひまわり保育園(鶴舞地区)	あすなる保育所(鶴舞地区)
1・保育施設の運営について	1968年乳児預り所として設立 1969年共同保育所 1976年10月1日認可 1985年に定員を拡大 30名(0歳~3歳) 60名(0歳~5歳)	1968年共同保育所として設立 1976年10月1日認可 1984年、定員を拡大	1977年看護婦授乳所として職員娯楽室を利用して出発(前身であるひまわり共同保育所の認可に伴い、産休明け等の年度途中での入園ができなくなったことから、職員組合と親が病院に働きかけて開園)
	認可保育園への移行は全学へのアンケート、他大学の状況を調査するとともに、児童の処遇、職員の処遇、安心して預けることができる環境等を検討して決定した。		
	設置・運営	認可保育所、社会福祉法人緑の丘福祉会を設立して運営(緑の丘福祉会はこの2保育園のみ運営している。)	
父母の保育施設運営への関与	運営委員会を父母5人、職員4人で構成し、保育行事等日常運営に参加。また年2回全父母、職員参加の委員会を開催し、保育、事業活動、決算、予算等を論議する。	以下の活動に全構成家庭及び職員が参加して運営をしている。 ・ひまわり総会:全家庭と全職員、年2回 ・父母会:父母で構成、総会と役員会 ・運営委員会:職員と父母で構成(代表) ・各専門部:全父母、職員がいずれかに参加 ・クラス懇談会:クラス単位、父母と職員	父母と共同で運営
名古屋大学の保育施設運営への関与	・土地の無償貸与(3年毎に更新、その際に保育園の状況等の資料を提出) ・入所児童状況の報告(毎年度)		運営委員会、年2回

項 目		どんぐり保育園（東山地区）	ひまわり保育園（鶴舞地区）	あすなろ保育所（鶴舞地区）
2・保育施設の職員・児童の状況について	職員数及び構成	園長1、主任1、保育者10、栄養士1、看護婦1、調理員1、臨時職員4（保育時間8時間）、短時間保育パート3、短時間調理パート2	園長1、保育者12、調理士2、保母パート6、調理パート1、掃除パート1	保育者（正職員）1、保母パート1、夜間アルバイト2、その他パート
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育園の経費はほとんどが人件費であり職員をどのように配置するかが重要である。 ・ 児童数に対する職員数は、国の最低基準より手厚い配置をしている。 ・ 職員の勤務時間は週38時間45分で4週7休である。これは公務員に準じている。残業が多いこともなく特に過労にはなっていないと思う。 		
	児童数及び構成（うち名大関係者）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定員60名（0歳～5歳、各10名） ・ 産休明け、育休明け入所予約事業で年度途中に6名まで受け入れ（最大66名） ・ 定員の弾力的運営で2000年4月より最大75名まで受入可能（定員の25%の増が可能） ・ 現在76名（産休明けと途中入所児による児童数の増加）うち名大関係者23%（18名） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定員60名（0歳～5歳、各10名） ・ 現在70名、保育要求の増大により定員を超えて入所（定員の25%の増が可能） ・ 名大関係者 70名53家庭中39名30家庭が名大関係者 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定員20名（昼間：0歳～1歳半、夜間：1歳以上～学童） ・ 年度途中から3月までの入園が多い。
	産休明け児の児童数（うち名大関係者）	5名（うち名大関係者2名）	8名（うち名大関係者7名）	10/15～1名入所 12月～1月 4名入所予定 臨時保育1名希望あり
	夜間保育児の児童数（うち名大関係者）	なし	なし	4名（関係者） 週2回、午後9時まで
対象者	名古屋市民（最近では愛知淑徳学園、河合塾、名大、看護関係者が多い）	名古屋市民（最近では看護婦の減少、ここ2～3年で女性医師が増加した。なお女性医師は育児休業を取得することが少ないようである）	原則として名大病院、医学部の教職員・学生	
その他	<p>名大関係者は年々少なくなっている。考えられる理由は次のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 入所時は名大の学生等であったが、その後就職等により名大関係者ではなくなるケースがある。 ・ 職員の場合は育児休業を取得することが多く、1歳児になると入所枠がない。（0歳児からの入所者がそのまま持ち上がるが多いため） ・ 入所希望自体が減ってきていることもある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 両保育園とも大学院生も入所資格は全く同じである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 労働条件が厳しいので保育者が定着しにくい。そのため、保育内容の蓄積が難しい。 	
3・保育施設の土地、建物の状況について	土地	敷地777㎡（土地無償貸与）	敷地739㎡（土地無償貸与）	1981年に看護婦通勤室を改修 1998年名大の再整備のため旧食堂を改修 1999年名大の再整備計画変更のため旧病棟を改修（無償貸与）
	建物（新築・改築の状況）	建坪468㎡、保育室7、その他	建坪496㎡、保育室7、食堂兼ホール1、調理室1、浴室2、会議室1、事務室1、その他	

	項 目	どんぐり保育園（東山地区）	ひまわり保育園（鶴舞地区）	あすなる保育所（鶴舞地区）
4・財政的基盤について	人件費	120,000千円（12年度）	130,836千円（12年度）	
	保育施設の事業費	6,900千円（"）	8,555千円（"）	
	児童の保育料	3歳未満児 1ヶ月 4,800円～61,600円 3歳以上児 " 3,200円～26,800円 （所得税額により変動）	1ヶ月 6,500円～61,600円	1ヶ月 50,000円、入所金を別に定めている。 入所月 1月 2月 3月 その他 入所金 5万 4万 3万 6万円
	国又は地方公共団体からの補助金	年額 135,500千円	年額 139,708千円	なし
	その他の父母の負担等	・名大祭バザー等事業収益 約100万円 （基準の最低ではなく、より高い保育のためバザー等を行い補填している。）	・バザー等で年間100万円を作り出す 70万円：事業費 30万円：活動費	前年度利用者からの卒後援助金等 保育料1名当たり5万円/月、事業活動費(バザー等 約30万円/年間)
	名大からの財政的援助	なし	なし	30時間パート2名分人件費（約280万円……99年度実績）夜間アルバイト人件費
5・保育の状況について	保育のニーズ ・入園待機児の状況（うち名大関係者数） ・待機期間	12名（園で受付けた者は名大関係者のみ。今すぐにも入所希望。） うち2名（職員）、うち10名（留学生）	・十分つかめてはいない ・地域から、あすなる会に参加している親子10～15組は保育園への入園を希望している。 ・あすなる在園児も入園希望	・現状ではない
	保育時間	平日7時30分～19時20分 土曜7時30分～18時00分	平日7時30分～19時00分 土曜7時30分～18時00分	7時30分～18時00分 （火、木：延長21時まで（1歳～学童） …利用料1000円/日）
	長時間保育の要求（北大では24時間保育を要求）	現在では大学教官1人が、夜10時位までやって欲しい希望あり	アンケート調査（2年前）では夜間も含め希望者がいたが、多くは保育時間が歯止めになっているので現状でよいという意見が多かった。	18：30～19：00迄の要求が出ている。
	夜間保育の要求	アンケート（2000年）で1名あり 現在の補助金のシステムでは利用人数、時間等の関係で実施は難しい。 （補助金の対象となる開所時間は11時間プラス3時間が限度。）		・夜間保育の保育内容向上 ・夜間保育の経費は食費のみ徴収し、人件費は附属病院が負担。
	病後児保育の状況（体制）	・父母が毎年3000円/人拠出し、運営委員会の責任で運営（共済制度として実施） ・1996年度より看護婦を配置 ・1名が利用できるのは100時間までと制限。 ・長時間保育の希望があるが体制的に難しい。	・体制はない ・子供の一般状態がよければケースバイケースであずかっている。 ・父母から多少の希望があるので今後の検討課題である。	特になし
	保育の質的維持と向上への外部評価の在り方	未討議		

項 目	どんぐり保育園（東山地区）	ひまわり保育園（鶴舞地区）	あすなる保育所（鶴舞地区）
6．父母からの保育上の問題点の相談状況	・年6回各クラスで保育懇談会を開催し交流 ・日々の保育ノートでも交流	・日常的には子育ての悩み ・担任のところで話し合いをもつ事が多い。	・保育者の身分が不安定により、保育内容の蓄積ができにくい。
7．名古屋大学の中において、例えば関連保育園入園相談センターなどの、どんぐり保育園、ひまわり保育園とは別個の相談センターの必要性	・年間を通して留学生の入所要望がある。システム等の説明の際に言語上の課題がある。大学に窓口を置く等、窓口等の一本化と通訳者の設置	・外国人の児童の入所申込の際、手続き等の伝達が困難。サポート体制が欲しい。	
8．運営上の課題で特に何かあればお聞かせください。	・留学生から2000年度11名、2001年度10名の入所希望があった。直ぐに入所したいとの希望であるが、年度途中の入所は難しい。またシステムも留学生にとってはわかりにくい。留学生の受入体制を作ることは急務と思っている。留学生センター等の協力があると助かる。 ・保育料は前年の所得を基にすることから、留学生は無料である。補助金（0歳児1名で約30万円）の関係で自由契約での受け入れは難しい。 ・習慣等に違いがあり入所した留学生の対応に苦慮する点もある。	・あすなる保育所の安定した運営確保するために分園化等をめざしたい。	・当局より2名の6時間パート分の賃金が出ている。保育者の不安定な採用の中で安心して子供をあずかる体制がない。正規職員の配置で公的に安定した保育所にするための援助をしていただきたい。 ・保育料が高く、入園が困難な場合がある。
9．名古屋大学に何か要望（希望）することがあればお聞かせください。	・子育てと働くことの両立のため、子供が0歳から小学校低学年迄は労働時間の短縮があると良い。	・父母の労働実態が厳しい中で子育てができにくい。労働時間の短縮や子育て支援のできる体制が求められる。	

（ は保育施設からの発言、 はワーキンググループ委員からの発言である。）

留学生に対するサポートについては、本学として今後検討が必要な課題である。
 大学が法人化した場合にどのようなことになるか心配している。土地の無料貸与は引き続きお願いしたい。
 ご趣旨はよく理解しており、法人化に際しての検討課題としたい。
 どんぐり保育園であるが林が繁って日当たりが悪いので、園児のために枝をはらっていただきたい。
 関係部署において対応をしていただくこととしたい。
 規制緩和により企業も保育園の経営に参加することができることとなり、どの保育園も確実に経営が厳しくなっていくのか。
 保育園の運営は財政的にも厳くなるかも知れない。なお、現段階では、企業が経営している保育園は保育内容の蓄積、職員の待遇など保育の在り方に問題があるように感じる。
 男女共同参画を推進する上から保育施設の充実が必要であると考えている。
 保育園にとっては、厳しい状況になると考えられるが、入所の需要はあると考えてよいか。
 女性が働くためには保育施設は益々必要になり、それに対処していくことが必要と考えている。
 しかし、補助金の増加は見込めない状況で、職員の労働条件を変えず保育の質の向上を図ることが課題である。

以 上